

昆虫・ クモ類



134頁 どこにどんな昆虫がいるのかな？

136頁 昆虫・クモ類を見るポイント

140頁 昆虫・クモ類の図鑑

234頁 県のチョウ、ミドリシジミ

冬のゴマダラチョウ・

235頁 オオムラサキの幼虫

似ている種類を見分けよう！

236頁 スズメバチ類の見分け方

似ている種類を見分けよう！

238頁 カマキリ類の見分け方

似ている種類を見分けよう！

290頁 アキアカネ・ナツアカネの
見分け方

どこにどんな昆虫がいるのかな？

どこにどんな昆虫が
いるが主な種類につ
いて、おおよその位
置を示してみよう。
他にも自分で見つけ
てみてね！

甲武信ヶ岳



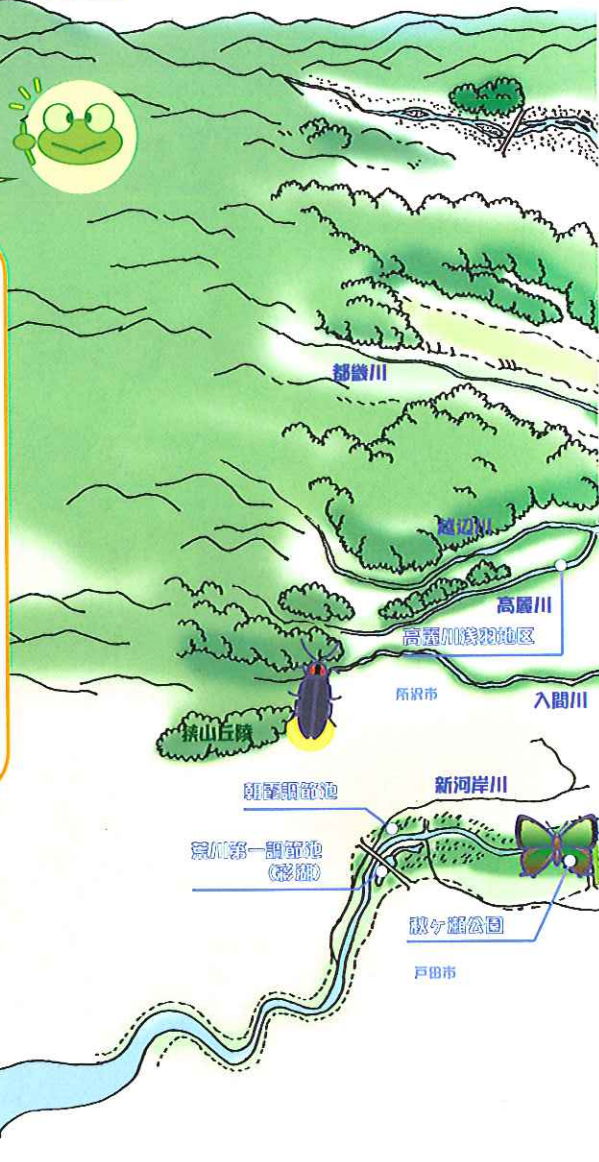
ヘイケボタル



ミドリシジミ



カワラバツタ

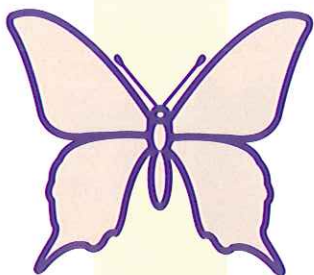




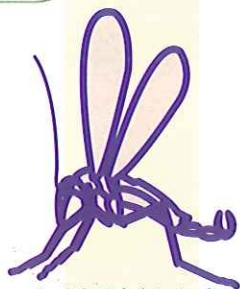
体つきは？



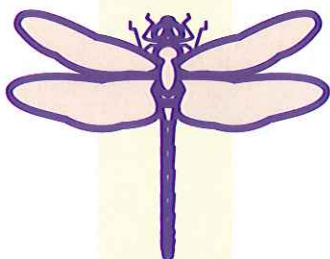
まずは体つきから、
何のながまが見当を
つけてみよう。



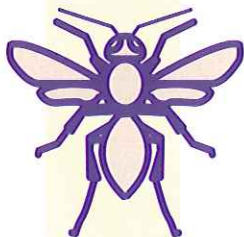
チョウ類



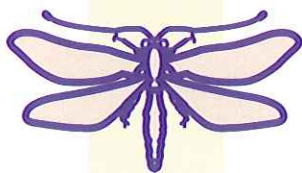
シリアゲムシ類



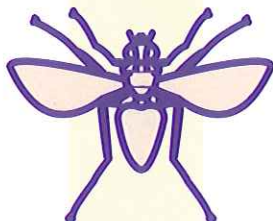
トンボ類



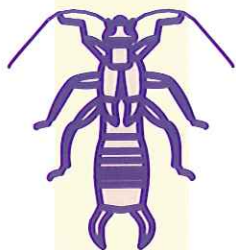
ハチ類



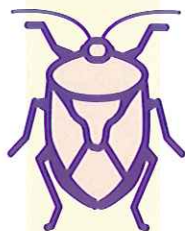
ツノトンボ類



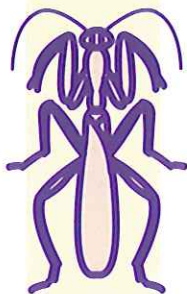
ハエ類



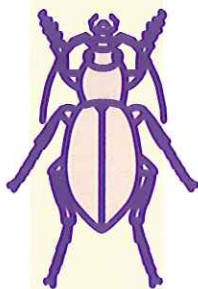
ハサミムシ類



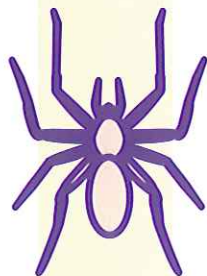
カメムシ類



カマキリ類



コウチュウ類



クモ類

昆虫・クモ類を見るポイント



特徴を見てみよう！
植物の葉や花の蜜、動物など何を食べている
かも観察してね！

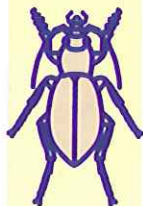
後バネは？



見えている



ない



がくれている

口は？



吸う口

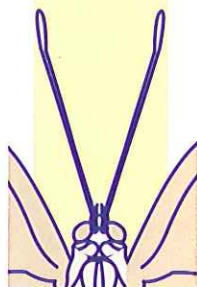


かむ口

触角は？



短い

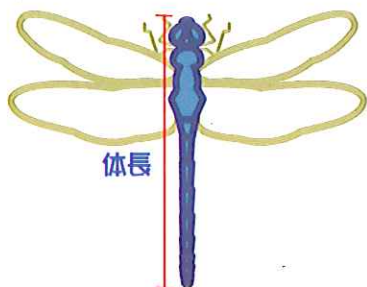
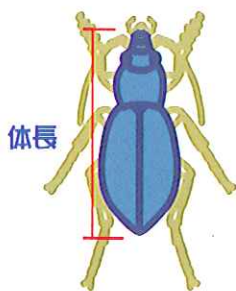
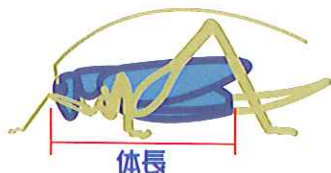
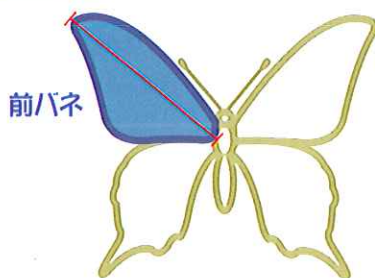


長い

大きさ



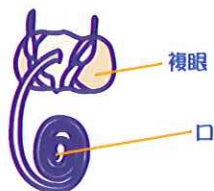
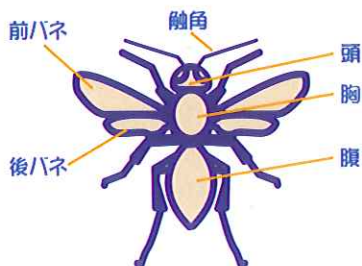
この図鑑で示している大きさの目安だよ。



昆虫類の用語解説

●未熟・成熟

羽化してから繁殖できるようになるまでを未熟（未成熟）といい、繁殖できる状態になることを成熟という。トンボ類などでは未熟期と成熟期では体の色にちがいがある。



ジャコウアゲハ *Byasa alcinous* アゲハチョウ科



前バネ：50～60mm

埼玉県RDB
準絶滅危惧(NI)

見られる時期
4～9月



見られる場所

草はら

2003年6月21日 川島町出丸下郷

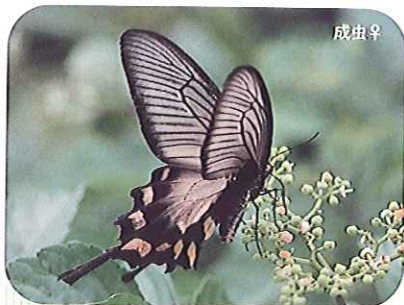
ウマノスズクサなどの生える草はらで生活する。



成虫♂

特徴

黒色の腹に赤色の模様がある。ハネはオスが黒色、メスが黄褐色。



成虫♀

食べもの

成虫はスイカズラやヤブガラシなどの花から蜜を吸う。幼虫はウマノスズクサの葉を食べる。



オスの成虫はジャコウシカからとれる香料のにおいがするのでこの名がついているよ。

●植物の毒を利用



卵



幼虫

さなぎ

ウマノスズクサの葉には毒成分があり、幼虫はこの毒を体に取りこんでいます。成虫も体に毒物質を持っているので、鳥などの天敵におそわれることが少ないです。

キアゲハ *Papilio machaon* アゲハチョウ科



前バネ：40～65mm

見られる時期

4~10月



成虫

特徵

黄色のハネに黒色の模様がある。



左がナミアゲハ、右がキアゲハ。
ハネの黒い模様がちがいがあ



五



若齡幼虫

鳥のふんに見えませんか？



終齡幼虫

葉の緑色にまぎれます。



さなき

見られる場所

草はら

2003年6月3日 川島町出丸下郷

明るい草はらや畑で生活する。

骨へのもの

成虫はアザミ類やハナウド、クサギなどさまざまな花から蜜を吸う。幼虫はセリや栽培植物のニンジンなどの葉を食べる。

●幼虫七变化

若齢幼虫は白色と黒色で「鳥のふん」に、終齢幼虫は緑色と黒色で「葉」に擬態しているといわれています。

ツマキチョウ *Anthocharis scolymus* シロチョウ科



前バネ：25mm前後

見られる時期

3～5月



成虫♂

特徴

後バネの裏側の草ずり模様が特徴。
前バネの先は、とがっていて、オスは黄色、メスは白色。



成虫♀



幼虫



交尾

食べもの

成虫はカントウタンポポ、カキドオシ、ムラサキケマンなどの花から蜜を吸う。
幼虫はイヌガラシなどの花の実を食べる。



見られる場所

草はら

2003年5月10日 川島町出丸中郷

林のへりや草はらで生活する。



最近、荒川では土手に生えるセイヨウカラシナ（外来種・291頁）をツマキチョウが利用するようになってきているんだ。

●スプリング・エフェメラル



イラストレーション トミタ・イチロー

成虫は3月下旬から5月のはじめの春だけに見られるので、スプリング・エフェメラル（春のはかない命）と呼ばれます。1年のうち、およそ10ヶ月をさなぎで過ごします。

モンキチョウ *Colias erate* シロチョウ科



前バネ：25～30mm

見られる時期

3～11月



2003年8月30日 吹上町小谷

見られる場所

草はら

土手などの草はらで生活する。

昆虫・クモ類

特徴

ハネはオスが黄色であるのに対し、メスには白色と黄色の2型がある。前バネの中央には黒色の斑が、後バネの中央にはだいたい色の斑がある。



成虫♀

食べもの

成虫はクサフジやアザミ類などの花から蜜を吸う。幼虫はクサフジ、ヤハズエンドウなどの葉を食べる。

●メスの2型



黄色型



白色型

メスはふつう白色ですが、オスと同じ黄色の個体が見られます。黄色型の比率は南へいくほど増える傾向にあり、北海道で10%、静岡県で30%、福岡県で50%といわれています。

キチョウ *Eurema hecabe* シロチョウ科



前ハネ：20～25mm

見られる時期

3～12月



見られる場所

草はら

2003年8月25日 熊谷市広瀬(大野生)

ネムノキの生える林やメドハギなどの生える草はらで生活する。



成虫

特徴

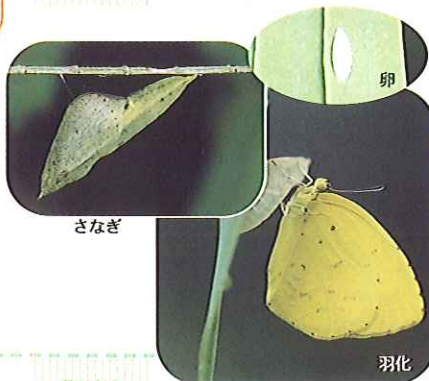
黄色のハネに黒色の模様がある。

●成虫で冬越し

寒く乾燥する厳しい冬を、チョウ類は種類によって卵、幼虫、さなぎ、成虫の姿で越します。成虫で越冬するキチョウは、秋になるとエネルギーを蓄えるため多くの花の蜜を吸い、冬越しに備えます。



交尾



さなぎ

卵

羽化

食べもの

成虫はハギ類やアザミ類などさまざまな花から蜜を吸う。幼虫はネムノキ、メドハギ、クサネムなどの葉を食べる。

スジグロシロチョウ *Pieris (Artogeia) melete* シロチョウ科



前ハネ：25～35mm

見られる時期
4～10月



成虫

特徴

白色のハネに黒色の模様がある。ハネに黒いすじがあることで、モンシロチョウと見分けられる。ハネにはにおいの出るりん粉がある。



卵

産卵

食べもの

成虫はカントウタンポポやアザミ類などの花から蜜を吸う。幼虫はイヌガラシ、タネツケバナなどの葉を食べる。



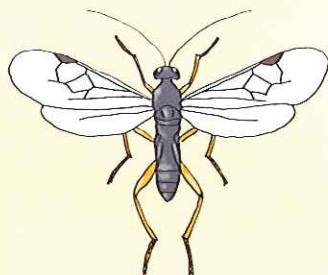
見られる場所

林

2003年8月30日 北本市石戸宿

林のヘリや草はらで生活する。

●寄生



アオムシコマユバチ

寄生バチのアオムシコマユバチは、モンシロチョウには寄生しますが、スジグロシロチョウには寄生が成功しません。アオムシコマユバチが産みつけた卵は、スジグロシロチョウの幼虫の体で血球に食べられてしまうからです。

モンシロチョウ *Pieris(Artogela) rapae* シロチョウ科



前バネ：25～30mm

見られる時期

3～11月



成虫

特徴

白色のハネに黒色の模様がある。
ハネのつけ根がオスは白色、メスは黒っぽくなっている。

見られる場所

草はら

2003年9月23日 川島町出丸中郷

土手などの草はらや畑で生活する。



交尾を済ませたメスはオスの交尾を拒否することがある。

食べもの

成虫はカキドオシやアザミ類、イボタノキなどの花から蜜を吸う。
幼虫はイヌガラシやキャベツなどの葉を食べる。



交尾

●チョウが見ている色は何色？

モンシロチョウのオスは、人には見えない紫外線を見て、交尾相手を探すといわれています。オスのハネは紫外線を反射しないので黒く見えますが、メスのハネは反射するので白く見えます。

ヤマトシジミ *Zizeeria maha* シジミチョウ科



前パネ：12～15mm

見られる時期

4～11月



成虫

特徴

ハネの表は青色、裏はくすんだ銀色で黒色の斑点がある。



交尾

食べもの

成虫はカタバミ、コマツナギ、カントウヨメナなどさまざまな花に集まり、蜜を吸う。幼虫はカタバミの葉を食べる。



荒川のチョウ類の中で、最もよく見られる種類だよ。

見られる場所

草はら

2003年8月25日 熊谷市広瀬 (大野生)

カタバミの生える丈の低い草はらで生活する。

●シジミ貝



シジミ貝

シジミチョウ類の「シジミ」の名は、シジミ貝に大きさや形、色が似ていることに由来します。「ヤマトシジミ」という同じ名の貝もいるので、注意が必要です。

ツバメシジミ *Everes argiades* シジミチョウ科



前バネ：11～14mm

見られる時期

4～9月



成虫

特徴

ハネの表はオスが青紫色、メスが黒色。



後バネにある突起がツバメの尾のようなので「ツバメシジミ」というんだ。



交尾

食べもの

成虫はヤハズエンドウやヤハズソウなどの花から蜜を吸う。幼虫はクズ、メドハギ、クサフジなどの花やつぼみ、新芽を食べる。



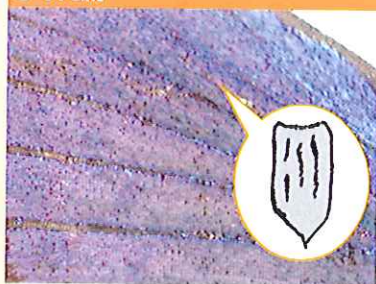
見られる場所

草はら

2003年6月28日 熊谷市広瀬 (大塚生)

土手などの草はらで生活する。

●りん粉



チョウ類のハネは一面にりん粉でおおわれています。りん粉はハネの膜に1枚ずつさしこまれており、まるで魚のうろこのようになっていきます。その役割の一つは雨などの水をはじくことだといわれています。

ミヤマシジミ *Lycaeides argyrognomon* シジミチョウ科



前バネ：15～17mm

環境省レッドリスト
絶滅危惧II類(VU)

埼玉県ROB
絶滅危惧I類(CR+EN)

見られる時期
4～9月



2003年6月28日

見られる場所
草はら

コマツナギなどの生える草はらで生活する。

昆虫・クモ類



特徴

ハネの表はオスが青紫色、メスが茶褐色で、だいたい色の斑紋がある。全国的に減っている希少な種。



食べもの

成虫はコマツナギ、カフラサイコ、カワラヨモギなどの花から蜜を吸う。幼虫はコマツナギの花や葉を食べる。

●アリとの関係



幼虫は体から蜜を出し、その蜜にアリが集まります。時には5～10匹のアリが集まって、幼虫から出される蜜をなめています。アリといっしょにいることで敵から身を守っているといわれています。

ベニシジミ *Lycaena phlaeas* シジミチョウ科



前バネ：15～18mm

見られる時期

3～10月



成虫(夏型)

特徴

ハネの表は黒褐色で、だいたい色の模様がある。春に発生するものはだいたい色の模様が明るい色彩だが、夏に発生するものは黒っぽくなる傾向がある。



交尾

食べもの

成虫はさまざまな花から蜜を吸う。幼虫はスイバ、ギシギシなどの葉を食べる。



見られる場所

2003年6月3日 川島町出九下郷

草はら

土手などの明るい草はらで生活する。

●なわばり



なわばりをはる成虫(春型)

オスは一定の区域をなわばりにして、他のオスを追い払います。時にはモンシロチョウやキアゲハなど他の種類のチョウ類をはげしく追う姿も見られます。

ウラゴマダラシジミ *Artipoetes pyralis* シジミチョウ科



前バネ：20～24mm

埼玉県RDB
絶滅危惧Ⅱ類(VU)

見られる時期
5～8月



見られる場所
林

2003年9月16日 川越市平塚新田
イボタノキの生える林
で生活する。

昆虫・クモ類



成虫

特徴

ハネの表は黒色で、青色の模様がある。
裏は白色で黒色の斑点がある。



成虫

食べもの

成虫はイボタノキやミズキなどの花
の蜜を吸う。幼虫はイボタノキの葉
を食べる。

●卵の形いろいろ



ウラゴマダラシジミ



キチョウ



ギンイチモンジセリ

チョウ類の卵は種類によって形が
さまざまです。

ミドリシジミ *Neozephyrus japonicus* シジミチョウ科



前バネ：16～22mm

埼玉県RDB
準絶滅危類(NT1)

見られる時期
6～9月



見られる場所

林

2003年5月6日 川島町出丸下郷

湿地のハンノキ林で生活する。



成虫♂

特徴

ハネの表はオスが金緑色、メスが黒色で斑紋に多くの型がある。(見分け方284頁)



成虫

ハネの裏はうす茶色にだいたい色の斑がある。

食べもの

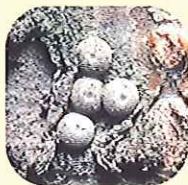
成虫はクリなどの花の蜜やクヌギの樹液などを吸う。



埼玉県では「県のチョウ」に指定されているよ。

●若い林を好む

ミドリシジミは壮齢期のハンノキ林よりも若齢期のハンノキ林を好むことが知られています。荒川でもメスは若齢のハンノキに卵を産む傾向があります。幼虫はハンノキの葉を内側に巻いて巣をつくり、葉を食べで成長します。



卵



幼虫



コムラサキ *Apatura metis* タテハチョウ科



前バネ：30～40mm

埼玉県RDB
準絶滅危惧(NT1)

見られる時期

6～8月



成虫♂

特徴

ハネの表はオスが青紫色、メスが褐色。
また、地上で吸水する姿やヤナギ類の
樹上をすべるように速やかに飛び姿が
よく見られる。

樹液を吸う
成虫



食べもの

成虫はヤナギ類やクヌギの樹液などを
吸う。幼虫はヤナギ類の葉を食べる。



見られる場所

林

2003年5月10日 上尾市平方

湿地のヤナギ林などで生
活する。



越冬幼虫

●角度によって変わる色



コムラサキの光り輝くハネは、
光線の角度や見る角度によって、
美しいつやの青紫色があらわれだ
り消えたりします。

昆虫・クモ類

ヒメアカタテハ *Cynthia cardui* タテハチョウ科



前ハネ：24～28mm

見られる時期
5～11月



成虫

特徴

ハネの表は朱色で、黒色と白色の模様がある。

見られる場所

2003年8月30日 吹上町小谷

草はら

土手などの草はらや畑で生活する。



ハネの裏は複雑な模様。



幼虫は葉の上で糸を吐いて巣をつくる。

食べもの

成虫はカントウタンポポやアザミ類などの花から蜜を吸う。幼虫はヨモギ、カワラヨモギなどの葉を食べる。

●世界に分布

南極、北極、オセアニアと南米中南部を除く世界各地に分布しており、その範囲がチョウ類の中では最も広いことから、「国際蝶」とも呼ばれています。



荒川では秋になるとよく目立つようになるよ。

ゴマダラチョウ *Hestina japonica* タテハチョウ科



前ハネ：35～42mm

見られる時期

5～8月



成虫

特徴

黒色のハネに白色の模様がある。黄色のストロー状の口がよく目立つ。(見分け方285頁)



見られる場所

林

2003年8月4日 さいたま市桜区下大久保
エノキやクヌギの生える
林で生活する。



幼虫

昆虫・クモ類

●オオムラサキ



オオムラサキ

国蝶に指定されているオオムラサキは、ゴマダラチョウと同じように、成虫が樹液を吸い、幼虫がエノキの葉を食べます。かつては [] の林などでも見られましたが、1980年代を最後に今では絶滅状態となってしまいました。



樹液に集まるゴマダラチョウなどの昆虫。

食べもの

成虫はクヌギなどの樹液や腐った果実を吸う。花に訪れて蜜を吸うことはまれ。幼虫はエノキの葉を食べる。

イチモンジチョウ *Ladoga camilla* タテハチョウ科



前バネ：25～33mm

見られる時期

5～9月



成虫

特徴

ハネの表は黒色で、白色の一文字模様がある。前バネの白紋のあらわれ方と複眼に毛が生えていることで、アサマイチョウと見分けられる。



イチモンジチョウ



アサマイチョウ

食べもの

成虫はイボタノキやノイバラなど白色の花によく集まり、蜜を吸う。幼虫はスイカズラなどの葉を食べる。



見られる場所

林

2003年5月25日 川島町出九中郷

林のへりで生活する。

●ふんてつくる不思議な形

幼虫は葉の先端で糸を吐き、つぎつぎにふんをつぎだして棒状の突起物をつくります。約30個のふんからなるこの突起物は「かんりゅうさ貫糸鎖」と呼ばれますが、その役割についてはよくわかっていません。



幼虫

アサマイチモンジ *Ladoga glorifica* タテハチョウ科



前ハネ：25～34mm

見られる時期

5～9月



成虫

特徴

ハネの表は黒色で、白色の一文字模様がある。複眼には毛が生えていない。日本鱗翅学会が作成した県別レッドリストでは「絶滅危惧Ⅱ類」となっている。

全国的にはイチモンジチョウより生活する場所が限られるけど、荒川では個体数が多いんだって。



食べもの

成虫はイボタノキやスイカズラなど白色の花によく集まり、蜜を吸う。幼虫はスイカズラの葉を食べる。



見られる場所

林

2003年5月25日 川島町出丸中郷
林のへりで生活する。

●4本足？



昆虫の多くは6本足ですが、アサマイチモンジなどタテハチョウ類の成虫は前足が退化し、体に密着しているために4本足のように見えます。

コミスジ *Neptis sappho* タテハチョウ科



前バネ：20～28mm

見られる時期

4～9月



成虫

特徴

ハネの表は黒色、白色の模様がある。はばたきと滑空をくり返して飛ぶ姿がよく見られる。



見られる場所

林

2003年6月28日 熊谷市広瀬(大府生)

林のへりで生活する。

食べもの

成虫はイボタノキやイタドリなどさまざまな花の蜜を吸う。地上で水を吸ったり、樹液、腐った果実、けものふんなどの汁を吸うこともある。幼虫はクズなどの葉を食べる。

●カモフラージュ

灰褐色の幼虫は、クズなどの葉の葉脈にガミ傷をつけて枯らし、枯れた葉の上に止まることでカモフラージュするといわれています。



幼虫

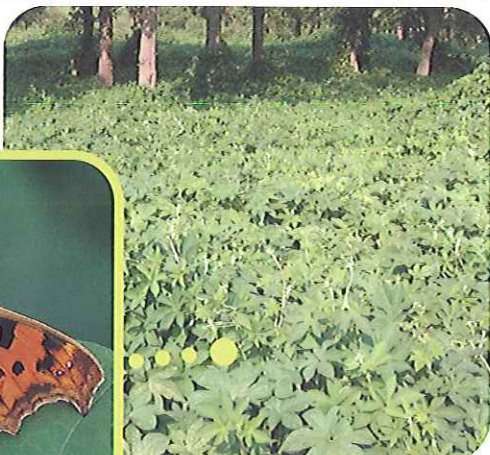
キタテハ *Polygonia c-aurum* タテハチョウ科



前バネ：25～30mm

見られる時期

5～11月



成虫

特徴

ハネは、夏にあらわれる夏型では黄褐色、秋にあらわれる秋型では茶褐色で、黒色の模様がある。幼虫は葉裏で糸を吐いて巣をつくる。

ハネを閉じると枯れ葉のように見える。

幼虫



食べもの

成虫はクヌギなどの樹液、イボタノキやカキドオシ、カントウヨメナなどの花の蜜、腐った果実によく集まり、汁を吸う。幼虫はカナムグラなどの葉を食べる。

見られる場所

草はら

2003年8月25日 鴻巣市緑田
草丈の低い草はらで生活する。

●季節によって色や大きさが変わる



夏型



秋型

1年に2回以上発生するチョウ類の多くは、季節によって色彩や大きさがちがいます。季節型は、幼虫期の日長(日の長さ)や温度(高温・低温)に関係するといわれています。キタテハの秋型は夏型より明るい色合いになります。

ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus* ジャノメチョウ科



前バネ：16～20mm

見られる時期

4～9月



見られる場所

草はら

2003年8月30日 吹上町小谷

土手などの草はらで生活する。



成虫

特徴

ハネの裏はさざなみ状の模様で、目玉のような紋がある。ハネを小刻みに羽ばたかせて飛び姿や葉の上に止まる姿がよく見られる。



ヤブガラシの蜜を吸う成虫

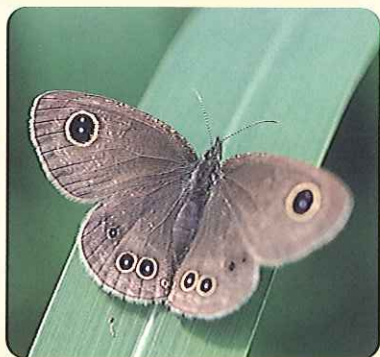
食べもの

成虫はカタバミ、スイバ、ヤブガラシ、イボタノキなどさまざまな花の蜜を吸う。幼虫はススキ、チガヤなどの葉を食べる。



荒川の草はらにいるチョウ類の中で、最もよく見られるよ。

●蛇の目模様



ハネの目玉のような紋は、鳥などの天敵から攻撃をかわす効果があるといわれています。紋はハネのへりにあるので、鳥についばまれても致命傷にはならないようです。

ギンイチモンジセセリ *Leptalina unicolor* セセリチョウ科



前バネ：14～16mm

環境省レッドリスト
準絶滅危惧(NT)

埼玉県RDB
準絶滅危惧(NT2)

見られる時期
4～8月



2003年8月30日

見られる場所

草はら

オギ、チガヤ、ススキなどの生える草はらで生活する。

食べもの

成虫はカントウタンポポやアザミ類などの花から蜜を吸う。幼虫はオギ、チガヤ、ススキなどの葉を食べる。

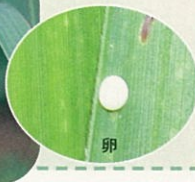
特徴

ハネの表は黒色で、裏は黄褐色に銀白色の一文字線がある。夏にあらわれる夏型は、銀白色の線がはっきりしない。全国的に減っている希少な種。



成虫（夏型）

ハネを開いたところ



卵

●幼虫の巣



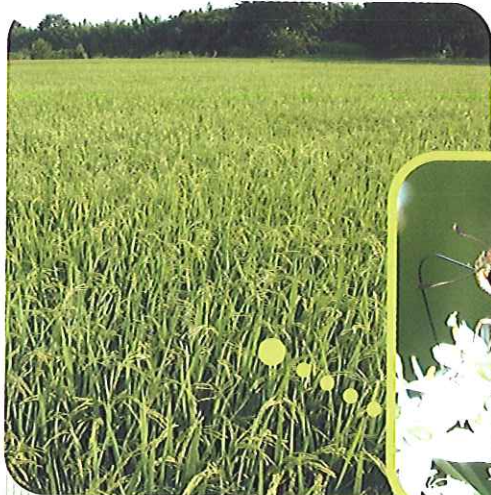
幼虫



さなぎ

幼虫はススキ、チガヤなどの葉を縦に巻いて巣をつくります。越冬した幼虫は春になると巣の中で2度続けて脱皮し、さなぎになります。

イチモンジセセリ *Parnara guttata* セセリチョウ科



見られる時期
5~11月



前ハネ：15~17mm



成虫

見られる場所
草はら

2003年9月23日 川島町出丸本

田んぼやアキノエノコログサなどの生える草はらで生活する。

特徴

褐色のハネにほぼ一列に並ぶ4個の白い斑点がある。

とがったものでくり返し
つつくことを「せせる」
と言うけど、花の蜜をせ
せる姿から「・・セセリ」
というんだ。



●わたり

成虫は夏の終わりから秋に移動を行います。何頭ものイチモンジセセリが南西の方向へ波打つようにリズミカルに飛びます。その速度は平均時速30kmくらいといわれています。



成虫

食べもの

成虫はアザミ類やイタドリ、ヤブガラシといったさまざまな花の蜜、腐った果実、鳥やけもののふんなどを吸う。幼虫はアキノエノコログサ、ススキ、チガヤ、スズメノヒエなどの葉を食べる。

ミヤマチャバナセセリ *Pelopidas jansonis* セセリチョウ科



前パネ：16～17mm

見られる時期

4～8月



成虫

特徴

褐色のハネに白い斑点がある。



交尾

食べもの

成虫はアザミ類やイタドリ、タネツケバナといったさまざまな花の蜜、動物の死体、鳥やけもののおふんなどを吸う。幼虫はオギ、チガヤ、ススキなどの葉を食べる。



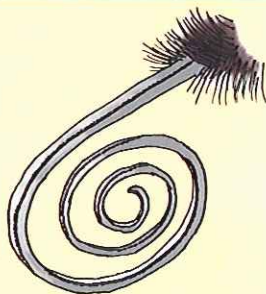
2002年7月22日 北本市石戸宿

見られる場所

草はら

オギ、チガヤ、ススキなどの生える草はらで生活する。

●ストロー



成虫になると幼虫期に葉を食べていた口がストロー状の口に変わり、水分と水に溶けた微量な成分を吸います。チョウ類は花の蜜だけでなく、樹液、腐った果実、鳥やけもののおふん、魚などの死体にも集まり、その汁を吸います。

シロオビノメイガ *Hymenia recurvalis* メイガ科



前バネ：12～14mm

見られる時期

6～11月



成虫

特徴

ハネの表は濃い褐色で白い帯があり、屋根型にたたんでとまる。成虫は昼間から活発に活動する。幼虫は昼間は葉を巻いた巣の中にかくれ、夜間にえさを食べる。



成虫

食べもの

成虫はカントウヨメナなどの花に集まる。幼虫はギシギシや栽培植物のホウレンソウなどさまざまな植物の葉を食べる。

見られる場所

草はら

2003年9月23日 上尾市平方
草丈の低い草はらや畑で生活する。

●チョウとガ



チョウ類の触角



ガ類の触角

チョウ類は昼間飛び、先のふくれたこん棒状やカギ状の触角を持ちます。そうでない種類がガ類と大きく区別することができます。しかし、ガ類の中にもシロオビノメイガのように昼間に活動する種類があるなど例外もあります。

ギンツバメ *Acropteryx lophata* ツバメガ科



前パネ：15～17mm

見られる時期
6～10月



2003年9月23日 上尾市平方

見られる場所

草はら

林のへりで見られる。

昆虫・クモ類



成虫

特徴

ハネの表は白銀色で、うす茶色の模様がある。ガ類は夜間に活動する種類が多いが、成虫は昼間から活動する。林のへりの植物の葉上でハネを広げて止まっている成虫の姿がよく見られる。



荒川の調査では約550種のガ類が確認されているよ。

●ガの種数

日本では、チョウ類で約250種、ガ類で約6,000種知られています。ガ類はまだまだ新しい種類が見つがっていますので、種類がチョウ類の25倍になる日も遠くないといわれています。



えさとなる
ガガイモ

食べもの

幼虫はガガイモの葉を食べる。

オオミズアオ *Actias artemis* ヤママユガ科



前ハネ：50～75mm

見られる時期

4～8月



成虫

特徴

ハネは青みのある白色で、前ヘリが紅色。成虫は夜間に活動し、街灯などのあかりに集まる習性がある。

見られる場所

林

2003年8月30日 北本市石戸宿

コナラやハンノキの生える林で生活する。



昼間、草かげや木の幹で休む成虫。



幼虫

食べもの

成虫の口は退化しており、えさをとることはしない。幼虫はコナラ、ハンノキなどの葉を食べる。

●触角の秘密



ガ類はチョウ類に比べて、立派な触角を持っています。ガ類の多くが、夜行性で触角をたよりに活動します。ガ類の触角は、においだけでなく、温度や湿度まで感じるができるといわれています。

ホシホウジャク *Macroglossum pyrrhosticta* スズメガ科



前バネ：22～25mm

見られる時期

7～11月



見られる場所

草はら

2003年8月30日 吹上町小谷

ヘクソカズラなどの生える草はらで生活する。



成虫

特徴

体は赤褐色で腹に黄色の模様があり、ハネの表は赤褐色、後バネにだいたい色の模様がある。



ハネを閉じた成虫。

食べもの

成虫はツリフネソウなどの花の蜜を吸う。幼虫はヘクソカズラの葉を食べる。

●ホバリング



スズメガ類は、ハネをこまかく羽ばたかせながら空中に静止（ホバリング）し、長いストローのような口で花の蜜を吸います。体は花に全く触れることなく、花粉を運ばないこともあっていわれています。

オウンモンクチバ *Mocis undata* ヤガ科



前バネ：22～25mm

見られる時期

5～9月



見られる場所

草はら

2003年9月23日 上尾市平方

林のへりの草はらで生活する。



成虫

特徴

ハネの表はオスが灰褐色、メスが赤褐色。成虫は夜間に活動し、街灯などのあかりに集まる習性がある。

食べもの

幼虫はクズやヌスビトハギなどの葉を食べる。

よく似た種類



ホソオビアシブトクチバ

よく似ているホソオビアシブトクチバは、ハネの表が茶褐色で、前バネと後バネに白い帯があります。

●鳥から身をかぐす



ヒメクビグロクチバ

名の「クチバ」はハネの表がくちた葉のようであることに由来します。ガ類の成虫は、最大の天敵と考えられる鳥から発見されないように進化したといわれています。鳥が食べない枯れ葉に似ることによって鳥からの攻撃をかわしているのでしょう。

クロイトトンボ *Cercion calamorum* イトトンボ科



体長：33mm前後

見られる時期

4～9月



成虫♂

特徴

体はオス、メスともに黒色が強く、オスは成熟すると胸に灰青色の粉を生じ、腹の先が青色になる。オスとメスがつながったまま、浮葉植物などの水生植物の茎や葉の中に卵を産む。



未熟成虫♂

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

見られる場所

水辺

2003年6月3日 川島町出丸下郷

エビモやヒシなどの生える池や沼、田んぼで生活する。未熟な成虫は水辺の林などに移って生活する。

●トンボの産卵

トンボ類は、種類によって卵を産む場所がちがいます。大きくは水に直接産卵を産み落とす種類と植物の茎や葉の中に産みつける種類の2つに分けられます。



植物の葉や茎に産む

水面に直接産み落とす

セスジイトトンボ *Cerclon hieroglyphicum* イトトンボ科



見られる場所

1993年7月30日 熊谷市久下

水辺

ヨシなどの生える池や沼などで生活する。

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。



体長：32mm前後



成虫♂

●水中にもぐる



オオイトトンボ産卵

空を飛びイメージが強いトンボ類ですが、セスジイトトンボやオオイトトンボはしばしば水中にもぐって水生植物に卵を産みます。このときは体中に生えた毛の間に残った空気を利用して呼吸します。

特徴

体はオスが水色、メスが黄緑色で黒色の模様がある。オスとメスがつながったまま、浮葉植物などの水生植物の茎や葉の中に卵を産む。



成虫♀

アジイトトンボ *Ischnura asiatica* イトトンボ科



体長：29mm前後

見られる時期

5～10月



2003年6月3日 川島町出丸下郷

見られる場所

水辺

ヨシなどの生える池や
沼、田んぼで生活する。
未熟な成虫は水辺の草
はらなどに移って生活
する。

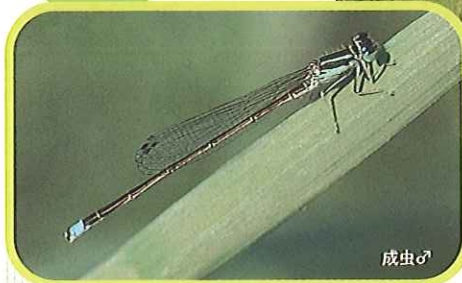
食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。



荒川のトンボ類の中で
最もよく見られるよ。

昆虫・クモ類



成虫♂

特徴

体は黄緑色で黒色の模様がある。
メスははじめだいたい色だが、成
熟するにつれて黄緑色になる。メ
スは水面近くにある水生植物の茎
や葉の中に卵を産む。



昆虫などを
つかまえる。

成虫♀



未熟成虫♀

●精子をかき出す

トンボ類のオス
は、交尾中にメス
の体の中に貯えら
れている精子（他
のオスの精子）を
かき出して捨て、
自分の精子と入れ
かえる行動をとり
ます。



アオモシイトトンボ交尾

ハグロトンボ *Calopteryx atrata* カワトンボ科



体長：60mm前後

見られる時期
6～10月



見られる場所
水辺

2002年6月21日 東松山市上唐子

まわりに林があり、水生植物が生えるゆるやかな流れで生活する。未熟な成虫は水辺から離れた林に移って生活する。



特徴

ハネはオスが黒色、メスが濃い褐色で、体は金緑色。メスは水面近くの水生植物の茎や葉の中に卵を産む。



食べもの
昆虫などをつかまえて食べる。

よく似た種類



アオハダトンボ成虫♂

よく似たアオハダトンボはオスのハネの脈が金緑色で、日光があたりと輝いて見えます。

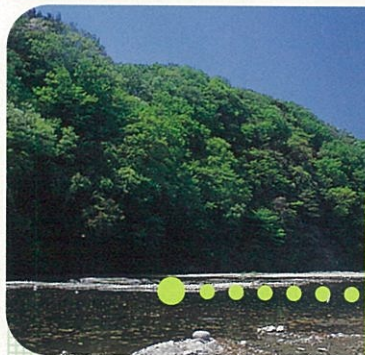
●生物層

季節の移り変わりに従って生きものが姿をあらわしたり鳴き出したりすることを生物層といいます。ヒバリがはじめてさえずった日やシオカラトンボ、ホタルがはじめて見られた日が観測されています。



ハネの色がお歯黒の色のようなので名に「ハグロ」とついているよ。

キイロサナエ *Asiagomphus pryori* サナエトンボ科



見られる場所

水辺

2003年4月17日

流れのゆるやかな中流域で生活する。未熟な成虫は水辺から遠く離れた山に移って生活する。

埼玉県RDB
準絶滅危類(N1)

見られる時期

5~7月



体長：43~49mm



成虫♂

●中流域



アオハダトンボ(172頁)、キイロサナエ、アオサナエ(175頁)、コオニヤンマ(176頁)、コヤマトンボ(180頁)など川の中流域に特有なトンボ類は、生息環境の悪化により減っています。

特徴

体は黒色で黄色の模様がある。成熟すると、平地の川に戻ってきて、交尾、産卵をする。メスはゆるやかな流れの水面に尾の端を打ちつけて卵を産む。



羽化した成虫♀

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

ウチワヤンマ *Ictinogomphus clavatus* サナエトンボ科



見られる時期
5～9月



体長：70mm前後

見られる場所
水辺

2003年5月12日 北本市荒井
開けた水面の広がる池
や沼で生活する。



成虫♂

●トンボ類の化石



トンボの化石：中国遼寧省、ジュラ紀
資料提供：栃木県立博物館

トンボ類はゴキブリ類とともに起源の古い昆虫といわれています。古生代の地層から、ハネを広げると70cmにもなる大型のトンボ類の化石が見つがっています。

特徴

体は黒色で黄色の模様がある。尾の端がウチワのように広がっている。岸辺の木の枝などに体を水平にして止まっていることが多い。メスは水面に尾の端を打ちつけて卵を産む。



「ヤンマ」とについているけどサナエトンボのながまだよ。

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

アオサナエ *Nihonogomphus viridis* サナエトンボ科



見られる場所
水辺

2003年5月28日 東松山市都幾川
流れのゆるやかな清流で生活する。未熟な成虫は水辺から離れた林に移って生活する。

見られる時期

4～7月



体長：55mm前後



成虫♂

●なわばり



オスは、メスがよく産卵に来る場所の近くの岩の上に止まっていて、一定の区域をなわばりにします。他のオスが自分のなわばりに入ってくると追い払い、また元のところに止まります。

特徴

体は黒色で、未熟な時期は黄色の模様が成熟すると緑色に変わる。メスはゆるやかな流れの水面に尾の端を打ちつけて卵を産む。



成虫♀

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

コオニヤンマ *Sieboldius albardae* サナエトンボ科



見られる場所

水辺

2003年5月28日 東松山市都幾川

水生植物が生えるゆるやかな流れで生活する。未熟な成虫は水辺から離れた草はらに移って生活する。

見られる時期

5～9月



体長：85mm前後



成虫♂

●つかまえたら逃がさない



成虫はチョウ類などの昆虫をつかまえます。足にはギザギザのとげがあり、足の先には鋭いつめがあります。この足は物をつかまえると、かごのようになり、獲物は逃げることができません。

特徴

体は黒色で黄色の模様がある。体の大きさの割に頭が小さい。メスは浅くてゆるやかな流れの水面に尾の端を打ちつけて卵を産む。



成虫♀

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

オニヤンマ *Anotogaster sieboldii* オニヤンマ科



体長：95～100mm

見られる時期

6～10月



見られる場所

水辺

2003年8月4日 北本市石戸宿

小川や湿地などで生活する。未熟な成虫は水辺から離れた山に移って生活する。



成虫♂

特徴

体は黒色で黄色の模様がある。メスは浅くて細い流れの砂泥底に卵を産む。卵から成虫になるまでに3年以上かかり、夏に水がよどんでいたり、冬に水が干涸びてしまうような場所では生活できない。

●大きな複眼



アオヤンマの複眼

トンボ類の特徴は大きな複眼です。個眼が1～3万個集まって、1つの複眼になっています。複眼で獲物となるチョウ類などの昆虫の動きをとらえ、つかまえます。



産卵

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

ギンヤンマ *Anax parthenope* ヤンマ科



体長：70mm前後

見られる時期

5～10月



見られる場所

水辺

2003年8月4日 川島町出九下野

ヨシなどの生える開けた池や沼で生活する。未熟な成虫は水辺から離れた草らなどに移って生活する。

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。



成虫♂

特徴

胸は明るい緑色で、腹にオスは水色、メスは黄緑色の部分がある。オスとメスがつなぐまま、水面近くの水生植物の茎や葉の中に卵を産む。



飛んでいる成虫♂



産卵



成虫♀

●群れて飛び回る

かつては、真夏の太陽が西に沈むころ、ギンヤンマなど無数のヤンマ類が飛び交う光景を見ることができました。しかし、1960年ごろからこのような光景は見られなくなりました。

カトリヤンマ *Gynacantha japonica* ヤンマ科



体長：65mm前後

見られる時期

7～10月



成虫♂

特徴

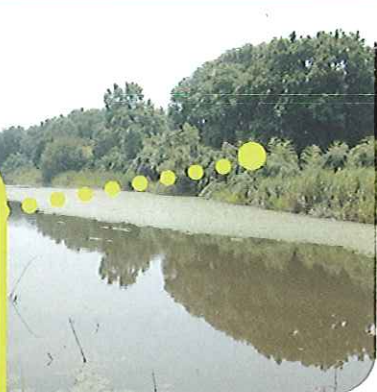
胸は緑色で、腹にオスは水色、メスは緑色の部分がある。メスは湿った土やくち木などに卵を産む。力をとる習性が「蚊取り（カトリ）」の名の由来。



成虫♀

食べもの

ガ類のような昆虫などをつかまえて食べる。



見られる場所

水辺

2003年8月4日 川島町出九下郷

まわりに林のある池や沼などで生活する。未熟な成虫は水辺から離れたうす暗い林に移って生活する。



荒川ではかつて田んぼのまわりでよく見られたけど、今では湿田や林が減ってしまい、見られなくなっているんだ。

●黄昏飛翔(たそがれひしょう)

成虫は昼間は木かげで休んでいて、気温が下がる夕暮れ時に飛びます。これを黄昏飛翔^{たそがれひしょう}といいます。林のへりを低く飛びまわって、ガ類などの昆虫をつかまえます。

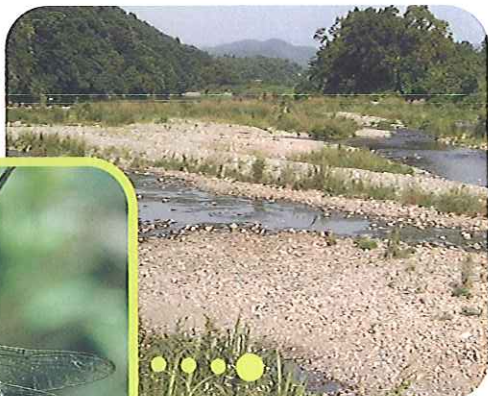
コヤマトンボ *Macromia amphigena* エソトンボ科



体長：75mm前後

見られる時期

4～7月



見られる場所

水辺

2003年5月28日 東松山市都幾川

流れのゆるやかな清流で生活する。未熟な成虫は水辺から離れた林に移って生活する。



成虫♀

特徴

体は金緑色のつやのある黒色で、黄色の模様がある。成熟したオスは、夕暮れ時に活発に飛ぶ。メスは水面に尾の端を打ちつけて卵を産む。



成虫♂

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

●勝ち虫



金箔押腰紅萌黄系威段替二枚胴具足

資料提供：米沢市（上杉博物館）

他の昆虫をつかまえて食べるトンボ類は「勝ち虫」とも呼ばれ、戦国時代には縁起をかついて兜や陣羽織などの武具の文様に好んで使われました。

ショウジョウトンボ *Crocothemis servilia* トンボ科



体長：48mm前後

見られる時期
4～10月



2003年8月4日 北本市石戸宿

見られる場所
水辺

ヨシなどの生える開けた池や沼で生活する。未熟な成虫は水辺から離れた草はらや林のへりなどに移って生活する。



成虫♂

特徴

体はオスが紅色、メスが黄色。メスは水面に尾の端を打ちつけて卵を産む。

●逆立ち



夏の強い日差しの下で、まるで逆立ちしているように腹を上げて止まっていることがあります。これは体を垂直にすることで日光にさらされる面積を減らし、体温の上昇をおさえていると考えられています。



成虫♀

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

コフキトンボ *Delelia phaon* トンボ科



体長：40mm前後

見られる時期
5～9月



成虫♂

特徴

体は黄色で黒色の模様があり、成熟すると白色の粉をふく。このことが名の「コフキ（粉ふき）」の由来。メスは水面に尾の端を打ちつけて卵を産む。

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

●色が変わる

トンボ類は、羽化した時から成熟するにつれて体や複眼の色が変わり、その種類のオスやメスに特有な色になります。



見られる場所

水辺

2003年8月4日 北本市石戸宿

ヨシやガマなどの生える開けた池や沼で生活する。



成虫♀



成虫♀

(オビトンボ型)

コフキトンボのメスは2型あり、ハネに茶色い帯のあるタイプをオビトンボ型と呼ぶ。

シオカラトンボ *Orthetrum albistylum* トンボ科



見られる場所
水辺

2003年8月4日 川島町出丸下郷

ヨシなどの生える池や
沼、田んぼで生活する。
未熟な成虫は水辺から離
れた草はらなどに移って
生活する。

●肉食



トンボ類は成虫も幼虫も肉食
です。成虫は活発に飛びまわり、
獲物をつかまえます。幼虫は水
中で待ちぶせして魚などの水生
動物をつかまえます。

見られる時期
4~10月



体長：50~55mm



成虫♂

特徴

体は黄褐色で黒色の模様がある。オス
は成熟するにつれて白色の粉をふく。
メスと未熟なオスは「ムギワラトンボ」
と呼ばれる。メスは水面に尾の端を打
ちつけて卵を産む。



未熟成虫♂
ムギワラトンボと呼ばれる。

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

ウスバキトンボ *Pantala flavescens* トンボ科



体長：45mm前後

見られる時期

5～10月



見られる場所

水辺

2003年8月4日 北本市荒井

池や沼、田んぼ、一時的な水たまりで生活する。



成虫♂

特徴

体はだいたい色で黒色の模様がある。ハネが大きく、特に後ハネのつけ根の近くが幅広くなっている、滞空性能が高く、長距離移動に適している。メスは水面に尾の端を打ちつけて卵を産む。成長がはやく、1ヶ月半ほどで卵から成虫になる。



ナガコガネグモにつかまったウスバキトンボ。

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

●わたり



荒川で多く見られるのはふつう6～7月頃からだよ。



毎年東南アジアや南西諸島から日本へ海をわたって飛んできます。日本で世代をくり返し、北海道やカムチャッカまで北上しますが、寒さに弱く、日本では冬にすべてが死に、また翌春、南からわたってきます。

コシアキトンボ *Pseudothemis zonata* トンボ科



体長：40～45mm

見られる時期

6～9月



成虫♂

特徴

体は黒色で黄色または白色の模様がある。未熟な成虫は黄色。メスは水面に尾の端を打ちつけて卵を産む。



未熟成虫♀

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。



見られる場所

水辺

2003年8月4日 川島町出丸下郷

まわりに林があり、コシなどの生える池や沼で生活する。未熟な成虫は水辺の林に移って生活する。



飛んでいるとき、腹の白い部分が空いているように見えるのでこの名がついているよ。

間拍的な環境破壊

アメリカザリガニやブラックバスといった外来種（291頁）が多散見られる水辺では、トンボ類の幼虫（ヤゴ）がほとんど見られません。さまざまな水生生物を食べるこれらの外来種は、もともとくらしている地域の生きものに影響を与えます。

チョウトンボ *Rhyothemis fuliginosa* トンボ科



体長：35mm前後

見られる時期

6～9月



見られる場所

水辺

2003年8月4日 上尾市平方

まわりに林があり、ヨシやガマなどの生える池や沼で生活する。未熟な成虫は水辺の林に移って生活する。



オスには模様がある

成虫♂

特徴

ハネの大半がオスは金青色、メスは金緑色で、体は黒色。メスは水面に尾の端を打ちつけて卵を産む。

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

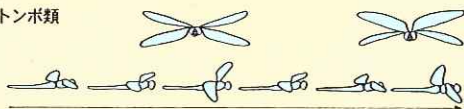


メスには模様がない

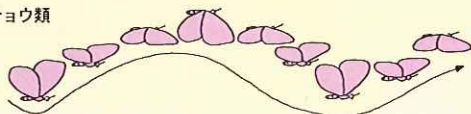
成虫♀

●飛び方のちがい

トンボ類



チョウ類



トンボ類は、前ハネと後ハネを互いちがいに上げ下げしてまっすくに飛びます。チョウ類は前ハネと後ハネを同時に上げ下げして飛びます。

ナツアカネ *Sympetrum darwinianum* トンボ科



体長：38mm前後

見られる時期

6～11月



2003年8月30日 吹上町小谷

見られる場所

水辺

ヨシなどの生える開けた池や沼、田んぼで生活する。未熟な成虫は水辺の林などに移って生活する。

●俳句や川柳に登場！

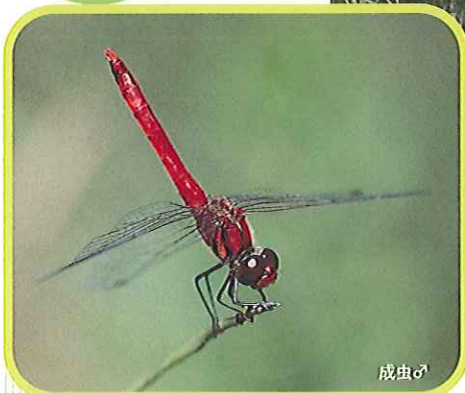
トンボ類は、秋の季語として俳句や川柳などで詠み親しまれてきました。

赤とんぼ地蔵の顔の夕日かな

(正岡子規)

遠山が目玉にうつるとんぼかな

(小林一茶)



成虫♂

特徴

体は黄褐色で黒色の模様がある。オスは成熟するにつれて赤色になる。オスとメスがつながったまま、空中で腹をふって、ばらまくように卵を産む。(見分け方290頁)



成虫♀

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

アキアカネ *Sympetrum frequens* トンボ科



体長：40mm前後

見られる時期
6～11月



見られる場所

2003年9月23日 川島町出丸本

水辺

明るく開けた池や沼、田んぼで生活する。未熟な成虫は水辺から遠く離れた山に移って生活する。



交尾

特徴

体は黄褐色で黒色の模様がある。オスは成熟するにつれて赤色になる。オスとメスがつながつたまま、水面または水ぎわの泥に尾の端を打ちつけて卵を産む。(見分け方290頁)

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

●往復移動



平地の池や沼、田んぼで6月ごろに羽化した成虫は、山に登ります。夏の間、山で過ごし、秋になると体が赤色になって平地に降りてきます。



ノシメトンボ *Sympetrum infuscatum* トンボ科



体長：45mm前後

見られる時期

7~10月



成虫♂

特徴

ハネの先に黒色の模様がある。体は黄褐色で黒色の模様がある。オスは成熟するにつれて赤褐色になる。オスとメスがつながったまま、空中でばらまのように卵を産む。



交尾

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。



見られる場所

水辺

2003年8月4日 川島町出丸下郷

まわりに林があり、ヨシなどの生える開けた池や沼、田んぼで生活する。未熟な成虫は水辺から離れた林に移って生活する。

●乾燥に強い

ノシメトンボの卵は乾燥に強く、ほ場整備によって乾田化された田んぼでも生きることができ、ため、近年、数が増える傾向にあります。



乾田



漫田

ミヤマアカネ *Sympetrum pedemontanum* トンボ科



体長：34mm前後

見られる時期

6～11月



見られる場所

水辺

2003年9月23日 川島町出丸本

ゆるやかな流れや田んぼで生活する。未熟な成虫は水辺の草はらなどに移って生活する。



成虫♂

特徴

ハネに褐色の模様がある。体は未熟な時期は黄褐色で、オスは成熟すると赤色になる。オスとメスがつながったまま、水面または水ぎわの泥に尾の端を打ちつけて卵を産む。



成虫♀

交尾

食べもの

昆虫などをつかまえて食べる。

●銅鐸（どうたく）



銅鐸 トンボなどが描かれている。
(袈裟庵文銅鐸、伝香川県出土銅鐸)
資料：東京国立博物館所蔵

弥生時代の祭りで用いられたといわれる銅鐸にトンボ類の絵がよく描かれています。古代の日本人にとって、トンボ類が大きな意味をもっていたと考えられます。

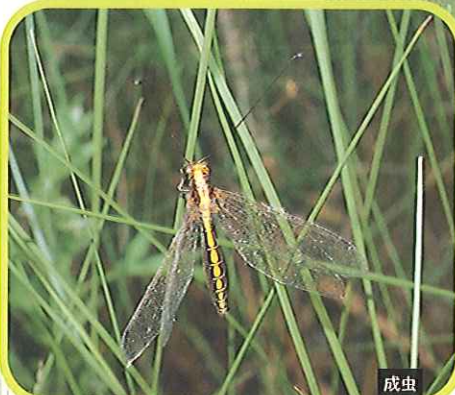
ツノトンボ *Hybris subiacens* ツノトンボ科



体長：25mm前後

見られる時期

5～9月



成虫

特徴

体は黒色で、褐色の模様があり、長い触角が特徴。



幼虫

よく似た種類



キバネツノトンボ

ツノトンボによく似たキバネツノトンボは、後バネが黄色で褐色の模様があります。荒川流域で記録されていますが、数が少なく、埼玉県RDBでは絶滅危惧種に指定されています。



見られる場所 草はら

2003年8月10日 熊谷市広瀬(大蔵生)
ススキなどの生える草はらで生活する。

食べもの

幼虫は草の根もとや石の下で昆虫をつかまえる。



荒川の河川敷では生活場所が限られています。

●ツノトンボはトンボ？

「トンボ」という名がついていますが、トンボ類ではなく、アミメカゲロウ類というウスバカゲロウ（アリジゴクの成虫）に近い種類です。